

コンドーム準備携帯とその意識－実態調査から－

A Study on Condom-Carrying Practices and Awareness

山崎 鯉子^{*1}・大石 時子^{*1}

Riko Yamasaki^{*1}・Tokiko Oishi^{*1}

キーワード：性行動，避妊，性教育，コンドーム

Sexual behavior, Contraception, Sex education, Condom

I. はじめに

近年，中学・高校生などを対象とした性教育が学校教育の中で行われている。しかし我が国では20歳未満の人工妊娠中絶実施率や死産率が増加してきている¹⁾。また，HIV（ヒト免疫不全ウイルス）やクラミジアなどの性行為感染症も増加してきている²⁾。

若年者は性感染症や避妊方法などの知識は性教育などを通じて学んではいる。しかし，若年者のコンドーム使用率の減少，膣外射精の増加³⁾より，性感染症や避妊の予防の知識が実際の性行動へと結び付けができていないと思われる。若年者の主な避妊方法はコンドームであるが，「めんどくさい」や「コンドームを準備していなかったから」⁴⁾という理由から必ずしも毎回きちんとコンドーム使用ができていないことが伺われる。コンドーム使用を規定する要因には避妊やSTD（性行為感染症）の知識，コンドームを使う技術的自信，どの程度危険性を感じているか，コンドームに対する文化的態度，性別役割行動，相手との交際の種類や程度などがあることが先行研究によって示されてきた^{4,5)}。その1つにコンドームを使用できるよう準備携帯しているか否かが要因として関連していることが指摘されている^{4,5)}。しかし，今までのわが国における性教育研究では，若年者のコンドーム使用の有無についての調査は行われてきたが，若年者がコンドームを準備携帯している

か否かの実態や準備携帯することの必要性の若年者の意識について調査した研究は少なく実態はあまり知られていない。そこで今回小規模ではあるが，若年者におけるコンドーム準備携帯の実態と意識に焦点をあてて調査を行った。

なお，本研究においてコンドーム準備携帯とは，コンドームを購入するなどして前もって用意し，いつでもすぐにコンドームを使用できるよう携帯したり，引出しの中に準備しておくなどの行動を指す。

II. 目的

本研究は，若年者のコンドーム準備携帯の実態とコンドーム準備携帯に対する必要性の意識を明らかにし，今後コンドーム準備携帯に向けての指導を考えることを目的とする。

III. 研究方法

調査対象は，M市で開催された避妊と人工妊娠中絶に関する分科会参加者に調査の趣旨を説明し，同意が得られた35名に質問紙を配布した。回収率は100%であった。

調査内容は，男性用コンドームを準備携帯することについて自作の質問紙を用いて分科会終了後に調査を行った。調査項目は，①コンドーム準備携帯の実態について，②コンドームを準備携帯する必要性の意識について，③コンドームを準備携

* 1 宮崎大学医学部看護学科 臨床看護学講座
School of Nursing, Miyazaki Medical College, University of Miyazaki

帯していない時に性交の機会があった場合の対応についてである。プライバシーの尊重に配慮し無記名とした。データの処理・分析は、統計パッケージSPSSを用い、 χ^2 検定を行った。有意確率5%未満を有意差とした。

IV. 結果

1. 属性

対象者の性別は、女性28名、男性7名であった。年齢別では16～18歳14名、19～24歳17名、25歳以上4名であった。女性28名の年齢構成は16～18歳11名、19～24歳15名、25歳以上2名であった。男性7名の年齢構成は16～18歳3名、19～24歳2名、25歳以上2名であり、男女の比率がアンバランスではあるが、女性は19～24歳、男性は16～18歳が多かった(表1)。

現在の性交相手人数は、0人14名(40.0%)、1人17名(48.6%)、2人以上4名(11.4%)であった。性交相手人数を性別との関係でみると、男性の28.6%は2人以上の相手を持ち女性では7.1%であったのとを比べると有意差は認めなかったが差がみられた。また性交相手の人数と年齢の関係では、年齢が若いほど性交相手が0人の割合

表1. 対象者の人数(年齢別・性別) (%)

	女性	男性	合計
年齢			
16～18歳	11名 (39.3)	3名 (42.9)	14名 (40.0)
19～24歳	15名 (53.6)	2名 (28.5)	17名 (48.6)
25歳以上	2名 (7.1)	2名 (28.6)	4名 (11.4)
合計	28名 (100)	7名 (100)	35名 (100)

が高く、性交相手が2人以上いる人の年齢別割合は25歳以上が一番高かった(表2)。

2. コンドーム準備携帯の実態

「コンドームを準備携帯している」と回答した者は11名31.4%、「コンドームを準備携帯していない」と回答した者は24名68.6%であった(表3)。

性別で比較してみると、「コンドームを準備携帯している」割合は、女性の32.1%、男性の28.6%であった。「コンドームを準備携帯している」と回答したのは、女性の方が男性より多かった。性別では有意な差は認められなかったが、男女とも携帯していない者が多かった。

年齢別で比較してみると、「コンドームを準備携帯している」割合は、16～18歳では20%、19～24歳では31.3%、25歳以上では44.4%であり、年齢が上がるにつれて携帯は多くなる傾向を示した。各年齢群別では、準備携帯していない者がいずれも多く、有意差は認めなかったが、年齢が若くなるほど準備携帯していない傾向であった。

現在の性交相手人数で比較してみると、現在の性交相手が0人、2人以上は全員コンドームを準備携帯しておらず、携帯していたのは性交相手1人のみであったことになる。コンドーム準備携帯について現在性交相手がいる者間で比較し、性交相手1人と性交相手2人以上との間で有意な差が認められた($P<0.05$)。

3. コンドームを準備携帯する必要性の意識

「コンドームを準備携帯する必要性の意識がある」と回答した者は12名34.3%、「コンドームを

表2. 性別・年齢・性交相手人数 (%)

現在の性交相手人数	0人	1人	2人以上	合計
性別				
女性	11名 (39.3)	15名 (53.6)	2名 (7.1)	28名 (100)
男性	3名 (42.8)	2名 (28.6)	2名 (28.6)	7名 (100)
年齢				
16～18歳	5名 (50.0)	4名 (40.0)	1名 (10.0)	10名 (100)
19～24歳	7名 (43.8)	8名 (50.0)	1名 (6.2)	16名 (100)
25歳以上	2名 (22.2)	5名 (55.6)	2名 (22.2)	9名 (100)
合計	14名 (40.0)	17名 (48.6)	4名 (11.4)	35名 (100)

準備携帯する必要性の意識がない」と回答した者は23名65.7%であった(表4)。

性別で比較してみると、「コンドームを準備携帯する必要性の意識がある」割合は、女性の32.1%、男性の42.9%であった。女性の方がコンドームを準備携帯する必要性の意識が低かったが、性別では有意な差は認められなかった。

年齢別で比較してみると、「コンドームを準備携帯する必要性の意識がある」割合は、16~18歳では30%、19~24歳では25%、25歳以上では55.6%であった。年齢別では有意な差は認められなかったが、16~18歳、19~24歳はコンドーム準備携帯の必要性の意識が低く、25歳以上は逆に意識は高かった。

現在の性交相手人数で比較してみると、「コンドームを準備携帯する必要性の意識がある」割合は、性交相手が0人では28.6%、1人では41.2%、2人以上では25%であった。特に現在の性交相手が0人、2人以上は、コンドーム準備携帯の必要性の意識がない方があるに比べ多かった。「コンドーム準備携帯の意識がある」と回答した者のうち、性交相手1人が他の0人、2人以上に比べ高かった。

4. コンドームを準備携帯していない場合の性交機会時の対応

コンドームを準備携帯していない時に性交の機会があった場合の対応について複数回答者32名を

表3. コンドーム準備携帯の実態 (%)

	コンドーム携帯			χ ² 値
	している	していない	合計	
全体	11名 (31.4)	24名 (68.6)	35名 (100)	
女性	9名 (32.1)	19名 (67.9)	28名 (100)	.03
男性	2名 (28.6)	5名 (71.4)	7名 (100)	
16~18歳	2名 (20.0)	8名 (80.0)	10名 (100)	1.3
19~24歳	5名 (31.3)	11名 (68.7)	16名 (100)	
25歳以上	4名 (44.4)	5名 (55.6)	9名 (100)	
現在の性交相手				5.4*
0人	0	14名 (100)	14名 (100)	
1人	11名 (64.7)	6名 (35.3)	17名 (100)	
2人以上	0	4名 (100)	4名 (100)	

注) Fisherの直接確立 *P<0.05

表4. コンドーム準備携帯する必要性の意識 (%)

	コンドーム携帯の必要性の意識			χ ² 値
	ある	ない	合計	
全体	12名 (34.3)	23名 (65.7)	35名 (100)	
女性	9名 (32.1)	19名 (67.9)	28名 (100)	0.2
男性	3名 (42.9)	4名 (57.1)	7名 (100)	
16~18歳	3名 (30.0)	7名 (70.0)	10名 (100)	2.5
19~24歳	4名 (25.0)	12名 (75.0)	16名 (100)	
25歳以上	5名 (55.6)	4名 (44.4)	9名 (100)	
現在の性交相手				0.7
0人	4名 (28.6)	10名 (71.4)	14名 (100)	
1人	7名 (41.2)	10名 (58.8)	17名 (100)	
2人以上	1名 (25.0)	3名 (75.0)	4名 (100)	

表5. コンドームを準備携帯していない場合の性交機会時の対応 (%)

	性交しない	コンドームなしで性交 ／膣外射精	合 計	χ^2 値
全体	24名 (75.0)	8名 (25.0)	32名 (100)	
女性	21名 (84.0)	4名 (16.0)	25名 (100)	4.9*
男性	3名 (42.9)	4名 (57.1)	7名 (100)	
16～18歳	9名 (90.0)	1名 (10.0)	10名 (100)	3.9
19～24歳	11名 (78.6)	3名 (21.4)	14名 (100)	
25歳以上	4名 (50.0)	4名 (50.0)	8名 (100)	
現在の性交相手0人	11名 (84.6)	2名 (15.4)	13名 (100)	1.9
現在の性交相手1人	11名 (73.3)	4名 (26.7)	15名 (100)	
現在の性交相手2人以上	2名 (50.0)	2名 (50.0)	4名 (100)	
コンドーム携帯している	8名 (72.7)	3名 (27.3)	11名 (100)	0.05
コンドーム携帯していない	16名 (76.2)	5名 (23.8)	21名 (100)	
コンドーム携帯意識あり	7名 (63.6)	4名 (36.4)	11名 (100)	1.1
コンドーム携帯意識なし	17名 (81.0)	4名 (19.0)	21名 (100)	

注) Fisherの直接確立 *P<0.05

検討した。「性交しない」と回答した人は24名75%、「コンドームなしで性交する・膣外射精」と回答した人は8名25%であった(表5)。

性別で割合を比較してみると、「性交しない」と回答した女性は84.0%、男性は42.9%であった。女性の「性交しない」と回答した人が男性より圧倒的に多く、また、「コンドームなしで性交する・膣外射精」と回答した人は女性16.0%、男性57.1%であった。コンドームを準備携帯していない時の性交の有無では性別によって有意な差が認められた(P<0.05)。

年齢別で比較してみると、16～18歳では90.0%、19～24歳では78.6%、25歳以上では50.0%が「性交しない」と回答した。「コンドームなしで性交する・膣外射精」と回答したのは、各年齢群の年齢が高くなるほど割合は多かったが、年齢別では有意な差は認められなかった。

現在の性交相手人数で比較してみると、現在の性交相手が0人では84.6%、1人では73.3%、2人以上では50.0%が「性交しない」と回答した。現在の性交相手人数が増えるほど、「コンドームなしで性交する・膣外射精」が明らかに多かったが、性交相手人数別では有意な差は認められなかった。

コンドーム準備携帯の実態で比較してみると、

コンドームを準備携帯していた人の72.7%、コンドームを準備携帯していなかった人の76.2%が「性交しない」と回答した。コンドームを準備携帯していなかった者は、「性交しない」と回答した者が多かったが、コンドーム準備携帯の有無では有意な差は認められなかった。

コンドームを準備携帯する必要性の意識で比較してみると、コンドーム準備携帯の必要性の意識があった者の63.6%、コンドーム準備携帯の必要性の意識がなかった者の81.0%が「性交しない」と回答した。コンドーム準備携帯の必要性の意識がない者の方が「性交しない」と回答したのが多かったが、コンドーム準備携帯の必要性の意識の有無では有意な差は認められなかった。

V. 考 察

1. コンドーム準備携帯と必要性の意識

本調査結果では68.6%の者はコンドームを準備携帯しておらず、また、65.7%はコンドーム準備携帯の必要性の意識がなかった。女性の32.1%、男性の28.6%がコンドームを準備携帯していた。また、女性の32.1%、男性の42.9%がコンドームを準備携帯する必要性の意識があった。男性の方が女性よりコンドーム準備携帯する意識の必要性はやや高いが、実際には女性の方がやや男性より

多くコンドームを準備携帯していた。五十嵐⁵⁾の調査ではコンドーム用意携帯行動は男性の得点が高かった。また、Sacco⁶⁾らの調査でも「コンドームを携帯している」「保管している」のは男性の得点が高く、2つの調査結果は本調査と逆の結果であった。本調査の男性は7名と対象者の数が少なく、一般的な比較は無理であるが、年齢は16～18歳3名、19～24歳2名、25歳以上2名であったので、特に年齢の影響はないと思われる。性交相手人数は0人3名、1人2名、2人以上2名であった。本調査の男性がコンドームを携帯していない傾向にあったことは、性交相手が現在いない人が3名いたことと、2人以上の相手がいる人はコンドームを携帯していない傾向がみられた事との関連性が推測できる。徐⁷⁾の調査では「コンドームを用意する」は男性としての役割期待・役割認知がもたれていた。本調査でもコンドーム携帯の必要性の意識は女性に比して男性の方が高かった。このことから、男性はコンドーム準備携帯することに対して役割認知はもっているが、そのことが実際にコンドームを準備携帯するという行動化へ結びついているとは限らないと推測できる。家坂⁸⁾が我が国の性教育で欠けているのは、「男性から男性への性教育」であると指摘しているように、特に男性に対して、いつでもすぐにコンドームを使用できるようにコンドームを準備携帯するよう行動変容に向けての指導が必要であると考えらる。

2. コンドーム準備携帯意識・行動と年齢

年齢が16～18歳の80%、19～24歳の68.7%がコンドームを準備携帯していなかった。また、16～18歳の70%、19～24歳の75%はコンドームを準備携帯する必要性の意識も低かった。このことは、高年齢になるにつれ妊娠することでの影響を身近に感じやすいからではないかと考えられる。また、年齢が高くなるに従い社会的背景やパートナーとの関係性などが影響してくると推測できる。性の情報が氾濫している現在において、正しい性に関する知識を与える対象は、若年者は勿論、それ以後の年齢層にも必要であることが明らかになった。

このことから性に関してもっとオープンに語れるようにすべての年齢層の男女の意識を変え、性教育内容を検討し、若いうちからコンドームを準備携帯する行動化・習慣化へと結びつきができるようにしていく必要があると考える。

3. コンドーム使用意識の男女間の差

コンドームを準備携帯していない時に性交の機会があった場合、「性交しない」と回答した女性は84%、男性は「性交しない」と回答した者より「コンドームなしで性交する・膣外射精」と回答した者が多く、性別間での有意差が認められた。男女間におけるコンドーム使用に関する必要性の意識のずれが生じており、男性はコンドームを使用せず性交を行う可能性が女性より高いと思われる。コンドーム使用に関する意識調査^{9)~11)}では、「コンドームをなるべく使いたくない」と答えるものは男性の方に多かった。これに対し、「コンドームの使用を嫌がる男性は、相手のことを大切に考えていない」「性感染症予防のためにコンドームを使用すべき」と考えているのは男性に比し女性に多く、女性はコンドーム使用を望んでいる。宮原¹²⁾もコンドーム使用に対する意識と実際の行動にはギャップがあることを挙げている。また、「コンドームを買うのは恥ずかしい」「コンドーム使用を自分では言い出せない」女性が多く¹¹⁾、Myers¹³⁾の調査でも、性交時にコンドームを使用しなかった理由の中で「コンドーム使用について話すことができなかった」と回答したのは、女性に多かった。このことは伝統的な性別役割の上では、コンドームを携帯しコンドームの使用を求める女性は、男性から否定的評価を受けることを心配して言い出せないと考える。女性は自分で性交時にコンドーム使用を意思表示し、コンドーム使用の交渉能力を高めていくことが重要である。コンドームを準備携帯していない場合の性交機会があった場合、女性の84%が「性交しない」と回答しており、コンドーム使用の意識はあるが、実際に行動できるためには、女性が意思表示できることと、男性の意識改革が必要であると考えらる。

4. コンドーム準備携帯意識と性行動

コンドームを準備携帯していない時に性交機会があった場合の対応で、コンドームを準備携帯していた者の中で「コンドームなしで性交する・膣外射精」と回答した者が27.3%いた。また、コンドームを準備携帯する必要性の意識がある者の中で「コンドームなしで性交する・膣外射精」と回答した者が36.4%いた。日本性教育協会の調査⁴⁾でも約3割の中・高・大学生が膣外射精で避妊していると回答していた。コンドームを準備携帯する行動ができており、必要性が認識できていても3割以上の者が実際はコンドームを使用せず、膣外射精で避妊ができると思っている。膣外射精が避妊法だと誤った理解をしていると推測できる。これは、正しい避妊方法についての知識が乏しく、性交時にコンドーム使用の行動化へと結びつきができないと考えられる。

現在の性交相手人数が2人以上の群は、コンドームを準備携帯しておらず、コンドームを準備携帯する必要性の意識も一番低かった。この群はコンドームを準備携帯していない時に性交機会があった場合の対応につき、50%が「コンドームなしで性交する・膣外射精」と回答しており他の性交人数の群と比べて一番高かった。コンドーム準備携帯と性交相手人数の間には有意差が認められ、家坂⁸⁾、張谷ら¹⁴⁾の「性交人数が多いとコンドーム使用ができていない」と、同様の結果が得られた。このことは、コンドームなしで不特定多数の相手と性交を行った結果としての望まない妊娠、人工妊娠中絶、性行為感染症などの増加となって現れてきている。性交相手が複数になるほど相手とのカジュアルな関係が多く、自己防衛、他者防衛の意識が低くなり、その上避妊や性行為感染症予防の必要性が理解できていないと性の問題は大きくなっていく。

以上本調査結果から、コンドームを準備携帯する事に対する性別役割の認識の違いがみられ、コンドームを準備携帯していたのは女性に多かったが、女性がコンドーム使用に関する交渉ができるかどうかは明らかにできなかった。性行動に関するジェンダー意識の調査¹⁰⁾によると、「男性に求

められたら女性はセックスに応じるべき」「女性に求められたら男性はセックスに応じるべき」「セックスは男性が主導権を握るべき」「女性がセックスを求めたりセックスについて話をするのはしたくない」は男性に多く、「恋人が嫌がるのならセックスを強要すべきではない」「セックスするかどうかは自分自身で決めるべきである」は女性に多かったと報告している。性というプライベートな領域において性別による力関係が平等でない状況下で、男性パートナーと性交をするかどうか女性自身が自己決定を行い、コンドーム使用の交渉をしていけるようにするための検討が今後必要となる。性的自己決定能力をどう捉えるかがある。自己決定ということととてもいい意味に聞こえるが、性的自己決定にはいわば逆の自己決定もあるということである¹⁵⁾。つまり、「性交をする」「性交をしない」ことは、その人にとってどう影響するかを含めて判断することが自己決定能力と考える。交渉能力とは、性に関する正しい知識、YES、NOとはっきり言える自己主張力、或いは、妊娠や性行為感染等に対して自分で解決できる問題処理能力であると考えられる。本調査結果では、年齢が若く、性交相手人数が複数な者ほどコンドームを準備携帯しておらず、また、コンドームを準備携帯する意識が低かった。早い時期から正しい避妊に関する知識を提供し、コンドームを準備し携帯する意識付けを行い、自ら性的な自己決定を主張できる能力を高めていくような指導が必要である。男女間におけるコンドーム使用に関する必要性の意識のずれが生じており、男性はコンドームを使用せず性交を行う可能性が女性より高いと思われる。以上、これらの結果を基礎にして、今後は特に、男性や性交相手が複数者に対して正しい避妊方法の知識を与え、避妊方法をパートナーと一緒に選択していく能力を持てるようなコンドーム準備携帯に向けての指導プログラム作成について追求していきたい。

VI. まとめ

今回のコンドームを準備し携帯することについての実態調査では、女性に比して男性は、コンド-

ムを準備携帯する必要性の意識は高いが、行動化へと結びつきができていないことが示された。また、コンドームを携帯していない時に性交の機会があったら、コンドームなしで性交を行うと回答した男性は女性より有意に多かった。これらより男性に対しての意識・行動変容のための働きかけが重要であると考え。また、年齢が若いほどコンドームを準備携帯する行動化、意識化が低く、早期からコンドームを準備携帯していく必要性を性教育の中に取り入れていくべきことが示唆された。特に性交相手人数が複数者はコンドーム携帯行動・意識ともに特に低く、コンドームなしで性交するとの回答も最も多く、この層に対しての働きかけが特に必要である。しかし、今回の調査では対象人数が少なかつたため、この結果を普遍化するためには特に男性の対象者数を増やした継続的な調査が必要である。また本研究の対象は、すでに避妊行動などに関心を持ち性のフォーラムに参加した者であって、一般の人々より意識が高いことが予想されることから、今後は一般を対象に更に対象者数の多い調査を行う必要があると考える。

謝 辞

本研究を行うにあたり、調査に快くご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。また本論文作成にあたり、御指導いただいた母性看護学教授長川先生に感謝申し上げます。

文 献

- 1) 厚生統計協会：国民衛生の動向2002年 49(9), 57-59, 2002
- 2) 熊本悦明, 塚本泰司, 利部輝雄他：日本における性感染症 (STD) サーベランスー2001年度調査報告一, 日本性感染症会誌, 13(2), 147-167, 2002
- 3) 若者の性行動：http://member.nifty.ne.jp/m-suga/index.html
- 4) 日本性教育協会 (編)：「若者の性」白書一第5回・青少年の性行動全国調査報告一, 177-207, 小学館, 2001
- 5) Myers T., Clement C.: Condom use and attitudes among heterosexual college students. *Canadian Journal of Public Health*, 85, 51-55, 1994
- 6) Wight D. Impediments to safer heterosexual sex: a review of research with young people. *AIDS Care*, 4, 11-21, 1992
- 7) 五十嵐哲也：高校生及び大学生のHIV感染予防行動を規定する要因, 学校保健研究, 44, 207-214, 2002
- 8) William P. S., Richard L. R., Karla T. et al: Gender differences in AIDS-relevant condom attitudes and condom use, *AIDS Education and Prevention*, 5(4), 311-326, 1993
- 9) 徐 淑子：仮想ペア・データを利用したHIV/AIDS, 性感染症, 望まない妊娠の予防行動における性差の検討, 日本保健医療行動科学会年報, 14, 167-189, 1999
- 10) 家坂清子：若年女性における性感染症とその予防啓発, 治療, 84(7), 37-41, 2002
- 11) 剣 陽子, 山本美江子, 松田晋哉：北九州市内の高校3校における性意識・性行動調査, 日本衛生学雑誌, 56(4), 664-672, 2002
- 12) 剣 陽子：北九州近郊地域における高校生の性行動・性意識調査から, *Quality Nursing*, 8(11), 5-12, 2002
- 13) 剣 陽子：北九州近郊における大学生の性行動と性に関するジェンダー意識調査, *思春期学*, 21(1), 95-104, 2003
- 14) 宮原春美, 久保田健二, 安日泰子：大学生のAIDSに対する知識と意識および性行動, *思春期学*, 14, 267-271, 1996
- 15) Ted M., Connie C.: Condom use and attitudes among heterosexual college students, *Canadian Journal of Public Health*, 85(1), 51-55, 1994
- 16) 張谷秀章, 堀口祐子, 高安ツギ子他：HIV感染予防からみた大学生の性行動, *CAMPUS HEALTH*, 38(2), 405-408, 2002
- 17) 藤井誠二：未成年者の売春をどう考えるか, *Sexual Rights Project (編)：買売春解体新書*, 129-161, つげ書房新社, 2001